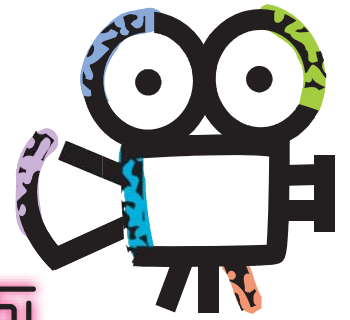


1930年代植民地期の 東南アジアで 撮影されたハリウッド映画 上映会



第1回

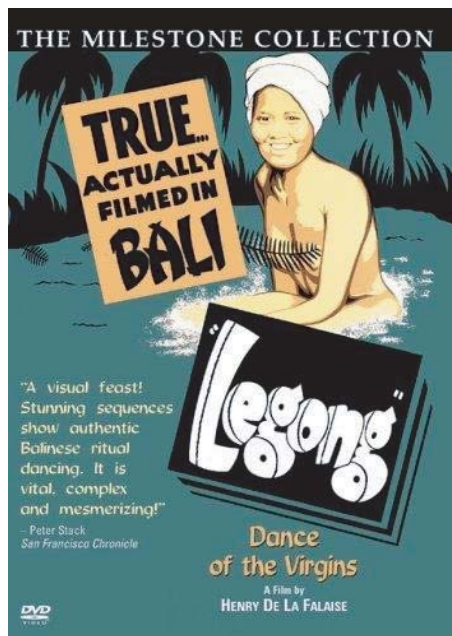
レゴン：乙女たちの踊り（1935年）

インドネシア（オランダ領東インド）、バリ島

日時：5月10日（木）6限

場所：115教室

アジア文化論Ⅱの講義ですが、どなたでも参加できます。



1931年にタヒチでロケをした Tabu がヒットしてから、「エキゾチック」な土地で現地の人々に演技をさせるドキュメンタリー風映画がハリウッドで多数作られるようになりました。今回紹介する2本のハリウッド作品にも、東南アジアの「エキゾチック」な風物に対する西洋の好奇心な視線を感じとることができます。

他方、1930年代の東南アジアの人々の生活や風景が写しとられており、貴重な記録ともなっています。

『レゴン』は、バリの村に住むレゴン舞踊の踊り子の少女とガムラン奏者の若者との間の恋物語を描きます。（サイレント、2原色テクニカラー、65分）

第2回予告

Kliou the Tiger（1936年）

ベトナム（フランス領インドシナ）

日時：6月14日（木）6限

場所：115教室

問い合わせ：

青山亭研究室 633